



Column from Europe

堀江 淳=文・写真
text&photographs by Jun HORIE

“ヨーロッパの「大人」なスキーの楽しみ方”

子

供がスキーを最初に体験するのは、親など大人と一緒にしかけていくことがほとんどだろう。これはヨーロッパに限らず世界共通だと思う。スキー場でいろいろな体験をして、いろいろな「何か」を感じて帰ってくる。スキー場や宿泊施設で体験した「過ごし方」も、そのひとつだ。

子供は大人の行動を見て、一緒に行動してスキーの楽しみ方や余暇の過ごし方などを覚えていく。最近になって、そういった積み重ねが国ごとの「ウインタースポーツの伝統や文化」を作っていくのだらうなと思うようになった。

ヨーロッパのウインタースポーツの数は、いまだに右肩上がりの傾向が続いている。スキー客ももちろん多いが、ウインタースポーツ全体の傾向である。アルペンスキー、クロスカントリースキー、テレマーク、スノーボード、スノーシューハイキングなど、さまざまなアクティビティを楽しむ人が多い。しかし楽しんでるのは、それだけではない。陸続きのヨーロッパでは、違う国のスキー場を気軽に行き交うことができる。山と自然を楽しみながらも、その地域の生活も含め、訪れた土地でしか味わうことのできない「雰囲気」までも楽しんでいよう。

オーストリアのチロール地方には「Tiroler Gemuetlichkeit (チロラー・ゲミュートリッヒカイト)」という言葉がある。日本語にすれば「チロールらしい牧歌的なメロウな時の流れと雰囲気の中で過ごす居心地の良さ」とで

も訳せるのだろうか。景観の素晴らしさだけでなく、地域一帯の雰囲気そのものが、チロール観光の「売り」になっている。それを楽しみたいと思う観光客が世界中から、冬だけに限らず夏も集まってくるのだ。夏場は登山やハイキングだけでなく、チロールには氷河があつて、夏の氷河スキーも人気が高い。

チロールの人気は恵まれた環境に頼っているだけではない。チロール地方の州の行政から州管轄の観光局だけでなく地域ごとにある観光局、さらにホテル、レストラン、ガイド事務所やスクールなどもお互いに連携を取り合いながら、それぞれが責任と役割をきちんと管理しながら実行している。訪れた観光客にゆとりを与え、気持ち良く、楽しい時間を過ごしてもらいたいと考えて、嫌味を感じさせない、ゆき届いたサービスや、さまざまなプログラムを用意している。さらに重要なのは、それらを受け入れて楽しんでいる観光客たちがいることだ。サービスを与える側だけの連携で終わるのではなく、受ける側まで連帯関係が生まれることで、ヨーロッパのリゾート文化が育まれ、それが継承されているように僕は考える。

「大人のスキー」は、ヨーロッパに來ないと楽しめないと思わない、むしろ日本には日本ならではの「大人のスキー」があると思つている。ヨーロッパの真似をする必要はないけれど、ヨーロッパからヒントは得てもいいのではないかと思う。機会があれば、いつか僕と一緒に大人のスキーを楽しみましょう。

オーストリアにあるヒンタートウクスは夏でも氷河スキーで賑わう。いつもと違う景観を楽しみ、文化を知ることにはスキーだけでなく人生の楽しさも広げてくれるだろう。ただ、ここ数年地球温暖化による氷河の後退が著しいのは、気になる問題だ



Profile

ほりえ じゅん
1961年11月13日生まれ、東京都出身。
オーストリアのインスブルックに在住。
オーストリア国家検定教師、国家検定
山岳ガイドの資格を持つ。冬季はアル
ペルベルグを中心にスキー教師やガイド
を務める。自分で撮影した写真のみを
掲載し、文章はタイトルのみという個性
的なブログは必見
<http://jun-snowman.com/>